

# インタラクティブ空間演習 オリエンテーション

女子美術大学大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻メディア研究領域

## 1. 「意義ある余暇」としての大学院

- a). school の語源 “skhole” (スコレー、ギリシャ語) = 「意義ある余暇」
- b). 「閑暇とはたんに暇な時間ではない、また、仕事の疲れを癒す休息でもない。  
閑暇は、人間が学問や芸術に専念し、幸福を実現するための、自由で満ち足りた時間である」  
(加藤守通「第2講 哲学と教育」、『教育思想史』今井康雄(編)東京：有斐閣アルマ、2009年、46頁。)
- c). 大学でこそ学べることを学んでほしい。卒業後の環境では(生活上、實際上)学びに取り組みにくいことがある。

## 2. 担当講師紹介

takuyo.ishii@gmail.com

- d). 石井 拓洋 (ISHII, Takuyo), Ph.D.
- e). 研究領域
  - 音楽文化学研究 (とくに、20世紀アメリカの音楽と文化)
  - 作曲家アーロン・コープランド研究 (Aaron Copland, 1900 - 1990)
- f). 論文
  - 「アーロン・コープランド：『アメリカらしさ』の革新性と映画音楽への展開」(東京芸大博士論文), 他

## 3. 〈研究的視点〉を学ぶ、ということ

- g). 人文社会科学の研究での主要な論点を知る (西欧近代主義、知の権力、正史、中心性、等への批判)。
- h). 〈西欧近代主義〉(western modernism)を知る。そして、その批判的検討。
- i). 〈実体論〉(substantialism)から〈関係論〉(relationalism)への知の変遷。
- j). 〈関係論〉を導いた淵源としての〈言語論的展開〉(linguistic turn)。
- k). 今日の〈関係論〉的な視点をふまえた上で、ふたたび、あえて〈真善美〉の存在を再考したい。
  - ※ 〈他者〉の存在を知る。「理解不能な事柄」にこそ自らの視点の欠落がある。資料精読のすすめ。
  - ※ 大学院の場としては、自らの「思いと感性」にしたがって作品を作りつづけるだけではもったいない。

## 4. 具体的な授業説明

- l). (シラバス参照)
- m). 講義資料 Web ページ <http://www.iitak.com/2018m/>

## 5. 来週と再来週 (4/25、5/2) の連絡

- n). 4/25 に、全員、院試で提出した「研究計画書」を持参して下さい (要、石井分コピー)。
- o). 「研究計画書」に基づいて 各自の研究紹介をして下さい (各回四人ずつ、一人約10分程度)。